



題字・松尾金蔵書
発行

修猷館同窓会東京支部
事務局

〒102-0073
東京都千代田区九段北1-11-11
第2フナトビル7F
丸紅パソネール・サポート(株)
FAX 3234-3546



撮影・大森正憲氏(昭和29年卒)

二十一世紀への礎の年に



東京修猷会会長
野上 三男
(昭和20年卒)

明けましておめでとうございます。

東京修猷会の会長をお引受けしたのが、つい此の間のようすが、もう二年目の新春を迎えます。

本年も、よろしく願っています。

それにしても昨年は、年頭のご挨拶で予感したとおりの多難な年になってしまいました。

とくに経済の面で、打つ手打つ手が後手にまわり、景気回復の歯車をどこから回し始めて良いのか……。デフレ・スパイラルの進行を前に、決め手が無くして右往左往の有様です。

加えて政治の貧困・低迷。

党利・党略の先行する駆け引きの中からは、少しも国家百年の計が見えてきません。

国際社会の注視する中で、国益を守るために、国民の一人一人が自ら考え自ら行動することが、今ほど大切な時期は無いと考えます。

一年や二年では、明るい将来は見えない現状と覚悟の上で、今年こそ是非、二十一世紀へつなげる日本の礎を

固める年になって欲しいと願っています。

そんな世の中でも、東京修猷会は、執行部の皆さんの地道な努力のお陰で、着々とその基盤を固めてきました。

六月の総会では、老若男女五百人をこえる出席者のそれぞれが、「修猷館の今」を身近に知る事が出来、改めて母校の伝統の重さと、後輩の頼母しさを実感しました。

二木会も、多彩な講師の人数とともに、確実に受け継がれています。

とかく暗くなりがちな世相の中で、明るく平常心を支え合える場として、東京修猷会を大切に保って行きたいと念じております。

そして、懸案の校舎改築の募金が、昨年十月からスタートしました。

皆さんのお手許に、すでに募金のお願いが届いている事と思いますので、内容については触れませんが、二十一世紀にまたがる大計画となります。

「遂に時代は二十一世紀を

迎える。校舎もこれからの時代にふさわしい、最新設備の校舎へと建て替わる。

だがその蔭で、この薄暗い、ミシミシと床がきしむ、云わば「目に見えない形の伝統」であるこの校舎は跡形もなくなってしまう。

そうなる私達には、「目に見えない形の伝統」を伝えていかななくてはならなくなる。

それは、「修猷魂」とでも云うのだろうか。未来の修猷へ、今の伝統を伝える――。

それは目に見えないものであるからこそ、私達の実践によつてのみ為されるだろう。

私達が誤って伝えたら、二度と元には戻らないだろう……。

修猷新聞に載った「未来へのバトン」と題する後輩の力強いメッセージです。

目標総額一億円、一口一万

円の募金は、できるだけ多くの皆さんに分ち合って参加して載くことにこそ意義があります。

混沌の現実から、明るい次

代へ希望をつなぐための身近な貢献として、ご協力を是非

お願いいたします。

何よりも、皆さんが身心ともに健やかに、この一年を過

されることを祈念して、ご挨拶の結びといたします。



改築中の修猷館・正門付近。見慣れた風景とはどこがちがう(水藤晋氏提供)



冬のマツキンリーに
単独登頂

平成三年卒 栗秋正寿さん

アラスカにある北米最高峰マツキンリー(六一九四米)に冬
季単独登頂した世界で四人目の
登山家・栗秋正寿さんが修猷館
の卒業生だときいて、上京され
た機会に話をききました。

NHKのテレビ番組『トップ
ランナー』の収録のための上京
で、九月に放送されました。彼
がマツキンリーで作曲した曲を
大江千里氏と合奏したり、温か
い雰囲気の中で番組でした。

栗秋さんが山に出会ったのは
修猷館山岳部。『高校の山岳部
がよかったんです。国体や大会
で、テントの立て方・ペグの打
ち方などをうまく速くできるか
を競うクラブではなく、夏は北
アルプスなどを登り、冬は伯耆
大山などでのびのびと登山し、
山に入ってからどこかに楽しむ
かの方が重要だと考えていた山
岳部でした』と言っています。

九州工業大学山岳部に入った
時は先輩と二人だけだったのが
大学院一年生の時には六人に増
え、その年K氏と二人で夏のマ
ツキンリーに登頂に成功していま
す。アラスカ・マツキンリーに
魅かれたのは九工大山岳部の初
の海外遠征の地として、夏休み
に比較的内りやすい、情報が得
やすい、アルパイトで賄える費
用ということで選んだのです
が、新田次郎の『アラスカ物語』
を読んで実在のフランク・ア
ンダーソンという人物の冒険記
に興味を持っていたこともありま
した。

登山技術は文部省登山研修所
の春、夏、冬、遭難救助の四つ
の講習に参加して修得しまし
た。

その翌年大学院を一年休学し
て徹底的に登山と訓練をしてい
ます。四月から六月にかけてア
ラスカのフォレイカー(五三〇
五米)とハンター(四四三三米)
に単独で挑戦。この二山はマツ
キンリーから見える美しい山々
で、あの山に登りたい、あの山
から逆にマツキンリーを見てみ
たいという思いで登りました。

そして九八年二月に出発し、
登山二十四日目、三月八日につ
いに登頂しましたが、天候悪化
のため、写真撮影だけして一分
後には下山開始しています。装
備と食糧は二ヶ月分百キロを持
つていき二回に分けて、五十キ
ロずつ機に掛けて運びあげまし
た。気温、気圧、湿度、風向を
朝夕計ってグラフ化し、烈風対
策を綿密にしました。「急変を
予測できる自信が持てたこと
で、心に余裕が出たのは大きか
った」といいます。五千メート
ルを超えると、気圧や酸素の関
係で運動能力は半分以下になる
そうで、紙一枚でも重いと感
じること。またテレビ局か
ら、空撮などをして番組を作る
話もあったけれど、いつもの自
分の登山でなくなりそうだった
ので断ったというエピソードは
「まず生還する事、次が楽しむ
こと、三番目に運が良ければ頂
上に立つこと」との彼の信念を
示しています。

純白の雪と露岩が夕照に染まる。
右手前が雪洞入口。1998年2月
28日キャンプ3(3000m)にて



そして一月月上旬に帰国して二
月に第一回目の冬のマツキンリ
ーに出発。三七日間の登山で五
二〇〇米まで登りましたが、烈
風とマイナス四十度Cという状
況で、深さ五十センチ程の雪洞
に上半身を庇に押し込むような
形で三日間過ごしたり様々な経
験をし、「よか男になって来年
登らせてもらおうばい」と誓っ

た。旅行に出発しました。入山中
にも会わない垂直の旅・登山と
違つて毎日ハブニングの連続、
人と出会い、温かき、やさしさ
に触れた水平の旅でした。「ア
ラスカの大自然を堪能し、その
中で毅然として生きていく人々
とのふれ合いを通して人間の原
点を見つめ直したい」と思つて
千四百キロ歩きました。マツキ
ンリー登頂は当地の新聞にも報
道されていて、いろんな人に声
をかけられ食事や宿泊の世話に
なりながら学校で講演をした
り、虫歯に悩まされたり、永住
している日本人家族に出会つた
りもしながら、釣りを存分に楽
しみ、三ヶ月後に北極海側のプ
ルドーベイに着きました。マツ
キンリー登頂の感動だけでなく、
アラスカの大自然を心と身
体で感じながら、人々と出会い、
人の優しさに助けられた旅でし
た。まだしばらくはアラスカに
通つてマツキンリーの別ルート
(文責 昭40年卒・棚町)



持っている旗は修猷館山岳部の後
輩からの寄せ書き。1998年2月
21日キャンプ3(3000m)にて



雪洞からの夕景色。気温-20℃。
1998年2月28日キャンプ5
(3700m)にて



「日ノ丸」こと「日ノ栗」の旗を持って、中央後方の山がマツキンリー南
峰(6194m)。1998年3月13日カヒルトナ氷河(2200m)にて

ヨット部

ヨットとの出会い・その後

昭和40年ヨット部卒業

鶴木 賢治

「変わったことばしようとか
ねえ。」これが私がヨット部に
入部した事を話した時、友人の
口から出た言葉です。もう三十
七年も過ぎてしまいました。今
に至るも、毎週末には「海」に
出ています。現代風に言えば、
ハマツています。中学時代はバ
スケットに熱中し、時々短距
離リレーや大濠公園での駅伝に
と陸上部にかり出されて出場も
していました。陸上のスポーツ
ばかりやっていたので、修猷一
年生の時泳げませんでした。
後には素潜りで魚突きも散々や
り(今は水中銃は禁止)、スキ
ューバもサルベージのアルバイ
トまでやるようになりました
が、その時には泳げないままに
デインギー(3・6米の小型艇)
に乗り、落水しないよう必死だ
ったことを思い出します。

現在、自艇は9米(十二人
乗)のクルーザーなので、何の
不安もありません。今、ベテラ
ンヨット乗りと人に言われ、自
負もしておりますが、私のヨッ
ト人生の第一歩はそうやって始
まりました。相模湾に、
東京湾に、館山に、と毎
月数度の草レースをや
り、伊豆半島、七島、
房総半島等々へとクル
ージングをやり、又、
モータークルーザーで
「カジキ」を追い回しと、
忙しい毎週末です。

ヨットのおかげで、
大勢の方々と新しい
出会いがあり、楽しい
お話を沢山聞かしてい
ました。本当に楽しい思
い出も沢山あります
す。又、いろんな方々
にお世話になり、お世話もしま
した。そういった事すべての出
発点は「変った運動部・ヨット
部」にあります。
そのヨット部のOB会を、本
拠地福岡では定期的にやってお
りますが(私が参加したのは五
十周年のみです、すみません)、
東京では忘れない程度に時々や
っています(すみません)。い
つも出席される方、たまに出席
される方、初めてデビューする
方と様々です。しかし、顔を合
わせた途端にタイムスリップし
てしまうのは毎度の事です。
初対面なのにとても懐かしく、
不思議な気持です。修猷館ヨッ
ト部卒業という遠い昔のこと
が、今、手にとるように甦つて
来ます。先輩も後輩もわけへだ
てなく、そこにあるのは「ヨッ
ト部OB」という共通項のみで
す。
さあ、百才までヨットに乗る
ゾ!
※ヨットに乗りた方、トロ
リングをしたい方、どうぞ
ご連絡下さい。
(0453734110 自宅)



東京修猷会 '99総会

平成11年6月11日(金) 18:00より

大手町経団連会館(出口A1・日経ホール隣り)

テーマ

いま、時と空間を超えて

修猷ホームページ発信!

<http://www.shuyu.gr.jp>

幹事/しっと一や会(S48年卒)



ふなつと福岡・博多へ

帰りたい。帰れない。
帰ります。帰ってきました。

人生はもはや60年から70年80年へ。
故郷へ帰った人、帰りたい人、帰る予定の人、もはや帰らない人……。
同窓生の声をきいてみた。

博多に戻って パソコンで交流

福田 道生 (昭24年卒)

近ごろは故郷と言う言葉はあまり聞かれなくなりましたが、中学・高校を過ごした出身地を離れて東京や大阪などの大都市で社会生活を過ごしておられる方はとても多いと思います。私もその一人で現役時代は関西系機械メーカーの技術者として三十数年勤め、この間大阪・東京・名古屋と海外を含め転勤転居の繰り返しでした。五十歳を過ぎたあたりから定年後の生き方、住み方をどうするかを考えたように一応生活拠点としていた西宮市から退職後は故郷の福岡市に戻ることを考え始めました。人生の中心部を占める仕事関連の事柄や長年の仲間や友人と遠く離れることは仲々簡単に決断できることではありませんが私の場合は福岡市に高齢の母が一人で住んでいたこと、住む場所があったことと家内も九州出身であったことが決定的要因となり六年前に福岡に帰郷しました。

「遠きにありて…」

大森 正憲 (昭29年卒)

大名小学校がなくなったと聞きました。これで私の行った小学校は二つとも消え去りました。私は昭和二十一年四月、台湾・台中からアメリカの貨物船で引揚げ、大名に転校しました。校長は言いました、「大名は九州一じゃ、お前は良か成績のごたるばってん、植民地の学校はレベルが低か。それに四年終了の学校印がなか。もう一回四年ばやれ。」と。私は抗議しましたが、「三月は引揚準備のゴタゴタで学校印はもらえなかつただ

行ったり来たり

水藤 晋 (昭40年卒)

一九九〇年六月の東京修猷会総会の際の記念誌に「山が見えない不安感」という題の拙文を載せていただきました。そこで私は、就職して東京に出てきた折の戸惑い、あるいは、その後十年余の東京勤務を通じて感じた「居心地の悪さ」を、「福岡と違って山が見えず、方向感覚がつかめないためではないか」という、一種の(象徴的な)仮説を立てて分析しようと思いましたが、

明治以降の日本における「中央と地方の問題」「故郷の問題」を解説する鍵が、その辺にありそうなきがしたのです。そういう意識を引きずっていたのと、長男の私も、妹も弟も九州を離れ、福岡には両親だけという状態だったことから、機会をとらえて九四年に福岡勤務希望を申し出、実現しました。(中古の一戸建てを購入。当分、腰を落ち着けるつもりだったのですが、予期せぬ事態の発生で九七年、単身赴任で東京にまた出てきました)

「帰りたい、帰れない」方々には申し訳ないのですが、三年余の福岡生活は極楽でした。学生時代に熱中したアマチュア無線も再開できましたし、勤め先の会社に福岡支社があり、年齢相応のポストがあったのが幸いです。(今は月一回、木曜の夜に福岡に帰って、火曜の朝、上京するようにしています。これから定年までの間、再び、あるいはどれだけ福岡で仕事ができるかは予断を許しません)



「あつ！修猷館がのうなつと。」(水藤氏撮影)

人生いろいろ

舞台の虜

高原 節子

人生色々、男も色々(ア！失敬)鳥倉千代子の歌通り、生きざま色々、未来もさまざま、個々の人生が大きなドラマです。で、ほんの少し、私の人生を垣間見ただけは幸いです。偶然にも、この原稿を依頼された日、十月十二日が、私の再出発の日だったのです。

昭和27年卒、在校中は文芸部でしたが、文化祭で「若草物語」「夜学生の四季」と舞台上に立つた味が忘れられず、九州朝日放送放送劇団に入り、一年後上京、舞台芸術学院に入学、劇団入団と、舞台の虜になってしまったのです。

当時も、今も然程変わらず、演劇人は貧乏で10円のコッペパンに5円のロッケを挟んで食べれば良い方でした。又、60年安保闘争真直中で、朝九時から夕方四時迄はデモ行進に参加、六時から舞台と、体力的にハードな毎日でしたが、舞台上に立てる喜びで幸せな日々でした。

幸せを感じる時

柏木 茂生

池袋に小劇場の草分けとして、私の理想とする、飲み物を取りながら気軽に芸居を楽しむ、パリ風カフェアトール『2つの部屋』を設立したのです。小生の家系は、どうやら日本

から離れて、外国に住み着く傾向があるようだ。私の祖父は第二次世界大戦前に外国で眼科医として開業していたし、又彼の弟も第二次世界大戦前にアメリカに渡り、今はその二世三世がそこで生活している。私は、研修医を終えた後、69年に、東京芸術大学声楽科の大学院を卒業したばかりの家に一緒に渡独した。親からの少額の経済的援助はあったものの、当時はトランク一個を持って横浜から船でナホトカへ渡り、何日間もかけてヨーロッパに行く一番安い方法を選んだ。最初は2、3年間の留学のつもりでやって来たのだが、その最初の2年は、語学をマスターするだけで精いっぱいだった。その後、家内はオペラ座との契約、私は内科専門研修医としてドイツ人の中に混じって病院で働くようになった。そのうちに我々もいつの間にかすっかりドイツに住み着いてしまった。今年で渡独30年である。すなわち私の人生の半分以上はドイツの生活である。幸にも、二人ともちゃんとした職業を持っていたからドイツ人社会から受入れてもらっているのだと思う。ドイツで生まれた娘は、昨年ベルリン大学医学部を卒業し、産婦人科医として今は大病院で働いている。我々の二世、或いは三世もこうやって又このヨーロッパの中で生活していくのだろう。

私は、10年前から、デュッセルドルフから東に30キロメートルはなれている人口約40万人の町、ブッパータルという所で、2人のドイツ人と一緒に内科総合診療所を開業している。患者さんの多くは勿論ドイツ人だが、それでも私の外来には、一日に少なくとも5、6人の日本人の方々がデュッセルドルフ、又その近郊、ドイツ国内、他のヨーロッパ諸国から来て下さる。その点、日本の情報も常に入ってくるし母国から遠く離れた異郷で生活しているという感じはしない。

ヨーロッパから日本迄飛行機で12時間、又アメリカへは6時間と、私の学生時代と比べては想像もつかないほど世の中は便利になってきた。私もこれに便乗して、よく世界旅行をするようになってきた。ヨーロッパでは、すでに欧州統合が始まりだし、将来は益々世界は狭くなっていく事だろう。早く世界は一つになって欲しいものだ。

私の一番の幸せの時は、世界中を飛び回って色々な国の人たちに接し、その国の遺跡を訪ね、又趣味である絵画、音楽を鑑賞できることだ。京都のお寺、庭園、また京都の郊外を散策する時、鄙びた温泉につかる時も又幸せな時である。(昭35年卒)

千葉の街の
キノコ狩り

渡辺 史大

そと足をのぞいて踏みしめると、ふかふかの絨毯の上を歩いているような、そんな気分になる落ち葉の間から、赤や白、黄色や紫の傘が小さくのぞいている。やった見つけたぞ！ 注意深く周りの落ち葉をかき分けると、傘を大きく開いたものや、まだ顔を出したばかりの幼菌まで一塊りになって息づいている。お目当ての物を探し出した時の喜びは又格別である。思わず、顔がにやりとなり、今夜のつまみはキノコのマリネか、それとも炒め物か、はたまた天ぷらか、などと考えながら時間が過ぎていく……。

いいでしょう。皆さん、ここがどこだと思いませんか。群馬？ 栃木？ いやもっと上か。とんでもない。ここは東京湾の潮風に吹かれて、家族連れや、若い二人連れが遊んだり、歩いたりしている、千葉の稲毛海浜公園の中です。我が家から自転車です15分、そこには私が千葉に移り住んだ頃に植えられた松や桜、栗、ナラの木などが20年の歳月を経て直径20cmほどに育っています。幅100m弱、長さ2kmにもなる、ちよつとした林になっています。落ち葉が降り積もって、いつの頃からか食用キノコが自生するようになっていたのです。2年前に初めてキノコを見つけてから（なんと最初に見つけたのが毒キノコであるテンゲタケの大群生でした。）秋9月に入ると、休日はキノコ図鑑を片手に通うようになりました。今まで見つけたキノコは20種類ほどですが、確実に食用になると分かっているのはまだ4種類です。残りは確信が持てず、君子危うきに近寄らずを決め込んでいます。次に見つかるのはなんだろうか。乞うご期待！

仕事の合間に時間を作って、出来る限り自然の中に入るようにしていますが、頭のリフレッシュには最適です。家の周りには四季折々の自然の恵みがたわわに実っています。春の竹の子掘りから冬の磯牡蠣採りまで、家族みんなでリフレッシュを兼ね、自転車です30分程出かけます。千葉の街中は季節を覚えてくれる我が家の食料庫です。

もう、画像処理と通信関係の社内工業を12年間やっています。思えば社会に出てから30年近く、ただひたすら開発畑だけを歩き続け、新しい商品を生み出す喜びを感じています。ただし、蓄財とは縁がないらしく、できてしまうと急速に興味が無くなり、今から商売という時には、また次の面白そうなものを探し始める有様で、周りの人はあきれかえっています。

（昭40年卒）

引き手と聞き手

出納 克彦

水泳をはじめて、15年。車で30分のところにあるスポーツジムにこれ4年通っている。少々遠いが、20年来悩まされている花粉症治療の耳鼻科と、公立図書館がみな近くにあるというのが理由だ。水泳を始めたのは、プールに行けばおおよそとしか言い、入場料も安い、そして泳いだ後のビールもうまいという単純な理由。しかし、46年卒の栗山君が1年の目標10万メートルときいて、目標設定をし直した。月8、10日1日一〇〇メートルで、年間10万メートル。

昨年は、春にカゼをひいて、1ヶ月ほど体調をくずしたせいもある、秋の追い込みも及ばず9万メートルくらいで終わってしまった。



私の就職活動

高野 健太郎

私は大学時代を通してより高いモチベーションで専門的な学問をやりたいと思っていたので、大学2年の頃から公認会計士の資格取得を目指して受験勉強をしていました。しかし大学4年の時の試験であえなく不合格となり、諸事情を考え、悩んだうえで働きながら会計の専門性を高める道へ転換しました。そのため私は6月下旬から就職活動を始めたので、金融大手などはほとんど終っており、就職留年も真剣に考えていました。

しかし留年すれば不利になるのは確実なので、とにかく締めずに大学の就職課に通って企業研究を重ね、まだ試験を受けることが出来る企業があれば、事前にOBの方にあつて社風や採用過程などについてお話をうかがい、実際に試験を受けるという具合でした。そういった経験を重ねていくうちに自分の「職業観」なり「人生観」が形成されていったと思います。そして9月にTKCの存在を知り、人事部の方からお話をうかがったところ、会計の分野に特化していること、経営理念が自分の職業観と合致していることなどその他全ての条件も自分が求めているものだったので、TKCこそ自分が探していた企業だと思いました。そして面接では自分の職業観や大学時代にやってきたことを素直に表現し、内定を頂くことができました。

就職協定の廃止により採用時期は早期化していますが通年化しているのも事実です。これから就職活動をされる方も、最後まで諦めず、前向きに、タフに頑張ってください。また大学時代に専門的な学問に関する目標を持つことは、就職氷河期においては当然のように学生に求められていることでもあります。

最後に、就職活動中に相談に乗って頂いた東京修猷会OBの方々に本当にありがとうございます。その御恩に報いるためにも社会に貢献できる人間になりたいと思います。

（早大4年・平成6年卒）

「夢」をもって欲しい

伊藤 弘信

平成11年1月1日をもって、旭通信社と第一企画が合併し、「アサツー デイ・ケイ」としてスタートします。

売上高では、広告代理店として電通、博報堂について、第3位の規模となります。

広告代理店は、もともと新聞、テレビなどのメディアとお客さんの間に立つ、支払の代理をするところから始まった業種ですが、現在最も重要なことは、スポンサーと消費者の間に立ち、お客さんとのパートナーシップを大切にすることで、この点、アメリカを中心とする世界的な考え方、システムと、日本の広告代理店のシステム、考え方がかけはなれており、世界の流れに沿わなければ、どんどん淘汰される時代になっていきます。その意味で今回の合併は、生き残りのためでもあるのです。総合広告代理店としての力量をまさに問われる時代になったのです。

の、苦しみ・陣痛であると考えれば、「クリエイティブ」ということで華やかなイメージが、先行していますが、基本的には人間を相手にした仕事であり、それだけに合理性、非合理性の両者をかねあわせた能力が必要であり、「感性」の高さだけあればよいと考えるのは、どうかと思います。

私自身、大学で、哲学を専攻したこと、物事にはすべてすぐに答えるものだけではないことを学んだことが役に立っているのではないかと思います。修猷館在校時も、化学も物理も当然学びました。トータルな知識が必要

であることも忘れて欲しくないのです。そして私達が求めているのは、「私は何が得意です」ということよりも、「私には、こんな夢がある」という気持ちです。その実現は、簡単ではないかもしれないが、トライして欲しいのです。

（アサツー デイ・ケイ副会長 前第一企画社長）昭31年卒

学生諸君に
期待するもの

鈴木 純

企業の採用実務に合計約10年間携わってきた者から見て、昨今の激しい企業経営環境の変化

に伴い、企業の期待する人材像も大きく変わりつつあるように感じられる。

まず第一に、従来安全確実な人材として重宝がられた「問題解決型業務の得意な優秀なタイプ」から「問題発見型業務に適応力の高い個性創造タイプ」へのニーズシフトである。「乱世の英雄」曹操のような強いリーダーシップと個性豊かな持ち主の登場が期待される時代である。

二番目に、企業側のネガティブリストの緩和傾向である。右肩あがりの高度成長時代は「こういう人材が欲しい。こんなヤツはいらない」というこだわり採用が多く見られた。しかし、かつてネガティブリストの筆頭にあげられた「ネクラ、オタク」人種が、コンピュータリテラシーの高さと強い相関を持ち、情報システム戦略が企業の命運を分ける現代においてスペシャリストとして活躍するケースが最近多い。面接の第一印象で人をタイプ分けし、採否判断する愚を犯すことなく、じっくり潜在能力を見極めることが企業にとっても必須となってきた。

三番目は、企業が協調性、忠誠心を必要以上に求めなくなってきたことである。長期雇用を条件に給与後払い方式で企業への依存心を高め、忠誠を誓わせたのが従来のやり方であった。いまや企業の存続のためには、依存心が強く自立できない社員は「負の負債」であり、人事・福利厚生制度もその方向で大幅な軌道修正が行われている。これからの企業は高い専門性、専門能力を持った自立できる社員との間でのいい意味でのレシプロスキームと緊張関係によりお互いを高め合っ

'98
就職戦線

いく必要がある。採用においても「自分の考え」「こだわり」を「協調性」より重要視する傾向が感じられる。

最後に体力面、精神面でのタフさはいつの世も共通要求事項としてあげられるが、乱世の今、より一層求められるものに違いない。

総じて言えば、指定校制度、就職協定、内定者囲い込みなどの偏差価値指向の悪弊が薄れ（率先して、それを実践してきた官公庁、大企業の凋落・離脱のため）自分のやりたいことをしっかりと考え、企業の建前と本音をしっかりと見極めさえすれば、自ずと自分にふさわしい企業、職業が選べる「すこしはいい時代」になってきたことは喜ばしいことである。

（NRI情報システム（株）取締役 昭45年卒）

平成10年 二木会

第454回	H10.1	西村英俊	S36	日商岩井取締役	マルチメディア社会
第455回	H10.2	石井千津	S46	埼玉大助教授	遺伝学
第456回	H10.3	尾嶋信好	S13	元修猷館教諭	志賀の海人
第457回	H10.4	藤吉敏生	S26	日刊工業新聞会長	今後の日本・新入生歓迎
第458回	H10.5	三浦昌生	S49	芝浦工大教授	理想の住まい
第459回	H10.7	友池一寛	S25	福岡市助役	福岡市の今とこれから
第460回	H10.9	渡辺俊介	S38	日経新聞論説委員	公的介護保険
第461回	H10.10	高岩 震	S20	写真家	サンダルでベトナム
第462回	H10.11	中川勝弘	S35	東京海上顧問	日本経済再生の道

公的介護保険

九月段階での試案

渡辺 俊介(昭38年卒)

二〇〇〇年四月にスタートする介護保険制度は、健康保険、年金保険、雇用保険、労災保険の次にできる五つ目の社会保障の制度ということで社会保障の構造改革の第一歩となるものである。なぜ改革する必要があるかといえば、社会保障費用65兆円のうち(96年度)52%は公的年金、37%は医療費、11%が老人と児童福祉に使われていて、老人・児童福祉に使われる分が少なく、今後老人人口の増加(毎年70万人増加)と少子化(日独伊は三大少子化の国)とともに、寝たきりや介護必要者が増えるが、ケアをする人口は減る一方という事態になる。99年に年金の大改革、二〇〇〇年には医療制度の抜本改革が行われる予定。介護保険は市区町村の管轄で、95年度を基にした計算では、40才以上の国民から徴集し四兆二千億円の費用が必要である。65才以上の人は年金から天引きし、40～64才の人は健康保険に上乗せする。平均二五〇〇円だが市区町村によって、人によって違う。受けられる人は65才以上の要介護者(原因如何を問わず)。40～64才の人は老化に伴った寝たきり・痴呆の場合は受けられる。99年10月から市区町村に申請して認定・振り分けが行われる。第一次認定では申請者に対して、市区町村担当者が出向き、85項目の医療・福祉の両面から細かいチェックがなされ、かかりつけ医師の意見書が必要。そこを通った人に対して第二次認定として、役所の中に医師・看護婦など外部の中心の認定委員会を作って振り分けが行われる。65才以上の12～13%が認定される見込み。認定されても六ヶ月毎に現状に合わせ

を更新する。

認定を受けて介護保険を受ける場合、一割は自己負担することになっている。第二次認定の審査の結果、却下(自立を勧める)、要支援(在宅のみ)、要介護度一、五(在宅が空いていなければ施設でも)とふり分け、要支援は月六万円程度のサービス(一割自己負担分を引いて五万四千円)を提供、要介護は一程度が月14～16万円、五程度だと月35万円のサービスとなっている。この数字はあくまでも理想的な姿として出ているもので、マンパワーも施設もなければどうしようもない。ケア申請から認定まで30日以内と決められている。全国三二〇〇の市区町村で、今後

施設に入る場合、今寝たきりの人を受け入れるのは特別養護老人ホーム(医療はほとんどなく生活介助が中心)29万床だったが、二〇〇〇年から今の老人保健施設が介護施設に変わり(28万床、療養型医療施設(いわゆる老人病院)19万床と合わせて、約80万床あるのみである。二〇〇〇年の時点で65才以上の人口は二二〇万人、介護保険の対象となる13%は二八〇万人、つまり約二〇〇万人は在宅で介護されなければならないことになる。

九月に第一回の介護支援専門員(ケアマネジャー)の国家試験が行われ、大変なフィードバックがあった。要介護者と介護サービスをする側の間に立つてケアマネジメントを開業する資格である。一人ひとりのケアプランを作り、ホームヘルパー・訪問医師・訪問看護婦の派遣、入浴サービス、デイサービスの斡旋などをする。この事業に上場企業なども参入しようとしているが、介護報酬はまだ決まっていなかった(一年後に決まる予定)。

'98二木会から
講演抜粋



保険料を決める作業をするが、手厚いサービスができる所は当然保険料が高くなる。今どこもレベルアップしようとしている。

広島県調布市は、非常にやる気のある町長とそれを支える熱心な医師達とですごい介護サービスができていて、全国から見学者が絶えない。東京では足立区が高額な介護費用を使っている(最重度の人に月61万円など)。こういう所は二五〇〇円より高くなり、設備がない村は相当に低くなる。平均するとこの試案の四割位が現状ではないか、最重度の35万円のサービスに対して、14万円分くらいできるのが現状ではないかといわれている。

自著を語る

「渚のモダニズム」出版まで

梁木 靖弘
(映画・演劇評論家昭45年卒)

今年の夏、久しぶりに本を仕上げました。短大に常勤で勤めるようになるまでは、毎年のように本を出していたのですが、教師になってからの7年間は一冊も出せませんでした。このままではいけないと、一昨年、思い切って退職したところ、本を出すという話が舞い込んできました。それも出版社でなく、チロルチョコで有名な松尾製菓の社長、松尾利彦さんからでした。この本は、数年前に西日本新聞に短期集中連載という形で発表した原稿をまとめたものですが、連載当時、かなり反響がありまして、よくとっては複雑な気分だったことをおぼえています。というのはそれまで、新聞に決まるといっていい。

介護保険から支払われるものは、直接の介護費用の他に、有料老人ホームに入っている介護に月50万円かかれば35万まで出るし、段差をなくすなどの住宅小改築費も支払われる。グループホームなどに入っている在宅介護となつて支払われる。

修猷館同窓会公式
ホームページ開設！
www.shuyu.gr.jp

高山 信彦

平成11年6月に開催される東京修猷会総会のイベントの一環として東京修猷会のホームページを開設し、電子媒体による情報の拡大と共有を、広く同窓生に供することが、「現代」に一番適した情報化ではないか、と例えば佐賀市では近隣の18市町村と共同で介護に取り組むなど、百をこえる区域で介護の広域化が行われようとしている。介護と医療の区別がますますなくなり、医療費を抑制できるかとの懸念もあるが、介護費は今後膨れ上がる一方なので、いろいろな方法で医療費を徹底的に削っていくという政府の方針のようだ。(日本経済新聞論説委員)

博多湾の遊覧船のなかで、十数人を前にお話ししたことをおぼえています。翌年、最後の第三部を終えたところで、一度出版の話があったのですが、ポシャって、そのまま時間が経ってしまいました。そして、ふたたび松尾社長が声をかけてくださった、本になったわけです。ちょっと安手な米国製ベーパーバックみたいな装幀も、おしゃれで、中味からデザインまで、すべて地方で製作したとは思えないほどの出来。博多からの新しいスタイルの情報発信だと自負しております。本としての反響は上々ですが、なにしろ書店は新刊書の洪水で、棚は大手出版社が占めているとすれば、なかなか読者の目に止まりません。関心のある方は、ぜひ注文してください。

「渚のモダニズム」マック出版
発行・発売星雲社 1500円



への想いをまたも知る機会となりました。出張をかねての(その逆か?)福岡の同窓会本部への資料探しにでかけてくれたサントリーの窪田君の功績は大きく、色々な話をする内に、同窓会本部もホームページに関心をよせてくれ、とうとうホームページ開設準備委員会を発足させました。本部が動き出せば我々も鬼に金棒です。鹿島の滝本君と三菱レイヨンの安田君は、自慢のコンピュータ技術で、サイトの調整、画像処理、音源のデジタル化など次々に難問をクリアしてくれました。幸い郵政省には、これらの問題・関連法規に強い稲田君もいてくれて、ソフト面のサポートは万全です。ミットヨの江村君は文字入力の強力な戦力です。修猷の凄

いところは、多岐に亘って素晴らしい人材がいて、さり気なく集まり、そしてその一人一人がとてつもなく優秀だという事です。(筆者を除く)

そのような経過で、公式のホームページがよいよ世界に向けて発信します。それも東京修猷会が生みの親になった事、そして昭和48年卒の我々が、HPを立ち上げた事は、自慢に思います。ここ何年かは、東京修猷会が修猷館同窓会本部に替わってホームページを運用しますが、時機がくれば本部にそれを移管する予定です。

ホームページの開設によって、東京修猷会の活動が、ひいては修猷館同窓会の運営が一層活性化すると共に館友の皆様方の相互交流の一助になれば幸いです。

しつとーや会(昭和48年卒)

二つの美術展から

二木会の講演で、小柳先生が言われたことを、最近よく思い出す。美しいものを美しいと感じずる心ではなく、美しいものを自分で見つけられる心を育てよう。そのせいか、美術展によく通うようになった。

そこで、最近たずねた、2つの美術展(もちろん修猷館出身)を紹介する。

●児島善三郎展(明治45年卒)
(渋谷区立松涛美術館H10・10・6・11・23)

井の頭線神泉駅を下り歩いて5分、住宅街の中にこの美術館はある。区立の小さな美術館だが、心暖まる感じのするところ。で、児島善三郎のおだやかな明るい画風にふさわしい。平成5年たまたま立ち寄ったデパートの美術展で児島善三郎展を見て以来、そして、修猷の資料館にあった一点と、偉大な先輩の絵はいつも心にあったような気がする。昼下り、絵の前であたたかいコピーをすすりながら、絵を見つめていると、日本人の資質と風土に会った独自の絵を目標した画家と、一瞬心の通い合うような気がした。

●田副正武展(昭30年卒)(銀座画廊春秋H10・12・6・12・12)

銀座7丁目の通り沿いの2階にこの小さな画廊はある。初日を訪ねてみると、紹介の葉書に書いてあったように、日フィルの演奏者の人たちが小さな画廊せましと展示されたモダンアートの前で、演奏されていた。来訪者のことばのはしに修猷ということばがきかれた。モダンアートは、そこに実現しようとした画家のこころを、見る人間それぞれがどう感じるのかという、究極的な表現とでもいえるのだろうか。いずれにしても、すばらしい作品は、人の心をゆさぶりつづける。(S)

第4回二木ゴルフ大会

第4回修猷二木会ゴルフ大会



折しも、大型台風10号の影響で、直前まで実施が危ぶまれましたが、24名の修猷健児は続々と終結！ある先輩いわく、「修猷ちや、すこが高校やね。」の驚きの中、予定どおりスタートしました。午前中は雨と強風、午後は晴れと強風と、まるで全英オープンにの如きコンディション。しかし、終つてみれば、ナイスプレイの連続の好ゲームとなりました。

優勝は、伊藤洋子先輩(S35卒) 54・53・107・H・C・36 N E T 71はお見事でした。また、4大会連続出場の有吉新吾前会長(S4卒)も、50・50・100 H・C・26 N E T 74で、堂々3位入賞、全員脱帽でした。

残念ながら天候に恵まれた大会ではありませんでした。が、まさに記憶に残る一戦となりました。皆様のご協力に、心から感謝しています。

さて、会のスタートから願っていたとおり、実に幅広い年齢の会員に、参加いただいています。更には、女性会員の活躍が目立つのも特長です。更には、中津俊基先輩(S18卒・第3回優勝)と中津孝基先輩(S36卒)、田代信吾先輩(S35卒)と田代泰三先輩(S38卒)のように兄弟参加も実現しており、嬉しい限りであります。



今後も、誰れもが気軽に参加できる、「おもしろいゴルフ大会」として長く継続できるよう、企画・運営したいと思っております。是非、多数の方々のご参加を、お待ちしております。

尚、第5回大会は、平成11年4月中旬を予定しています。ご案内、ご参加ご希望の場合は、既参加メンバーに声をかけていただくか、東京修猷会事務局まで(FAXにて)ご連絡下さい。

(昭47年卒・福島 治)

学年だより

「さんざん会」
(華の33年卒)

昭33年卒幹事 瀧口 勝

平成10年は卒業40年目を迎え、さんざん会40周年記念総会実行委員会を結成し、露木委員長、松井事務局長のもとにその準備にかかった。平成10年11月20日には親睦ゴルフ、前夜祭を、11月21日・22日に原鶴温泉への記念旅行を計画して多数の参加を呼びかけた。

親睦ゴルフは27名が参加し、前夜祭は池先生、牧野先生、相羽副教頭をお迎えして72名が参加し盛大に行われた。佐藤守講師(同級生・元空将)による「国際情勢をどう見るか」をテーマに大変興味溢れる講演があった。

記念旅行は石田先生にご参加頂き、総勢90名が21日18時原鶴温泉ホテルパーエンス小野屋に集まり盛大な宴会が始まった。露木委員長より「定年を間近に控えリストラする方、される方、まだゴマスリする方、される方」と人生の岐路に立ち、大変な時期を迎え、さんざん会の公式記念行事も40年で終わりにしようと思っていたが、やはりこれから先も45周年、50周年と続けて行こうという決心に決めた。旨の挨拶がありこの為には松井事務局



「さんざん会」の皆さん

局長には是非最後まで生き残って世話して欲しいとのコメントがあった。

宴会は盛り上がり、中には卒業以来の再会を喜ぶ風景があらちで見られた。

★ 晩秋の再会友と夜もすがら翌22日は午前中は小春日となり白壁の美しい吉井町を散策した。

★ 秋日燦白壁の町花の町

そのあとバスで田主丸の巨峰ワイン工場見学に向かった。折からのワインブームで赤、白と試飲が続き、またユーモア溢れる説明に聞き入りそしてお土産を買うなど楽しいひとときであった。

★ 赤ワインこれ白ワイン

楽し秋

見学後バーベキュー大会となり、ワインを呑みながらの楽しい昼食会でまた盛り上がりがあった。出発の時間が迫り、最後にみんなで肩を組み「館歌」「彼の群小」「興望はおもしろ」と三曲声張り上げ斉唱して、バスに乗り込み終点の博多駅前で45周年の再会を誓い解散した。

★ 秋天に響けよ館歌高らかに

「大漫会」の歴史と
現況

昭26年卒幹事長 植崎 隆

「大漫会」は昭和26年卒業後、10年経過した昭和36年10月、36名が集まって結成された。大雑把、いかげんというより「おらか」という意図のネーミングだ。爾来、今日まで総会には38回開催され、毎年30名から50名が集い、西新の学び舎に思いを馳せている。そして現在、約百名の正会員(関東近辺在住者)と準会員(福岡その他の居住者)60名で構成されている。

会は、常任幹事(任期3年)5名と年度幹事(総会の運営すべて)3名で効率よく運営し、年次総会を行うほか、昭和47年以降、会報の発行が始まり平成10年11月には第50号が発行され、最近号よりカラー化され会員より好評を得ている。その他、趣味の集いも次第に盛んになり定着してきている。

思い出として、昭和45年に東京修猷会の当番幹事となった際、70名近くとなり、日比谷公園松本楼での総会は、アトラクション・景品も盛り沢山で、出席者の皆さんに喜ばれ、盛況であったと記憶している。卒業30年目、40年目には記念行事を福岡で実施したが、次は五十周年に向けて、地元福岡と想を練っている。

その他、平成6年には、在校時代出来なかった修学旅行を京都で実施し、旧交を暖めたり、昨年は関係同窓の協力を得て、福岡・東京合同で、13日間アメリカ西海岸ツアーを実施した。弁護士業、科学振興、紡績業、貢献ということで、黄綬褒章、藍綬褒章を3人が受賞しているのは、我が仲間としての誇りである。

'98総会報告

渡邊和博

平成10年度東京修猷会総会は、平成10年6月12日(金曜日)18:00より、大手町経団連会館で開催しました。

ここに、盛会裏に終了したことを報告すると共に、ご協力頂いた方々に心より御礼申し上げます。

今年度の総会は、第一部・平成10年度東京修猷会総会、第二部・「修猷今物語」—今の修猷、今の西新、今の修猷生—、第三部・懇親パーティーという

修猷館情報

(新聞記事より)

かまど付きの
渡来人住居跡

福岡の遺跡から出土

福岡市早良区の修猷館高校の校舎建て替えに伴う福岡県教育委員会の十四日までの発掘調査で、同校を中心とする「西新町遺跡」の古墳時代前期の集落跡(三世紀後半—四世紀前半)から、朝鮮半島からの渡来人が住んでいたとみられる、かまど付きの住居跡や朝鮮半島製の土器などが出土した。

九州大の西谷正教授(考古学)は「かまどは朝鮮半島では一般的だったが、日本にはこの時期に渡来人によってもたらされ始めた。日本ではほとんど製造されていない鉄の板、鉄鍵(てつてい)が出土していることから、



古墳時代の遺跡(水藤氏提供)

内容でいい、我々昭和47年卒「しゃあない会」が幹事でした。昨年度の幹事(46年卒・よかろう会)は、まじめに社会的問題に取り組み、テーマは「21世紀への提言」でした。昨年の総会後、「しゃあない会」のメンバーで何が出来るかを真剣に検討しました。そして、我々らしい内容にしようとの方向性を元に、今回のテーマを決めたのです。

最初の発想は、「現在の星娘(修猷の女生徒)は、ルーズソックス」を履いておちやうかか?」でした。女生徒の割合が半数を占め、西新の登校風景も違っちゃらうね。運動会のタン

「学校文化」再生産の過程検証 黄 順姫著

「日本のエリート高校」

黄 順姫著

ここで著者が言う「エリート高校」とは、単なる「有名進学校」のことではない。地域社会にあって文化的な威信を保ち、各分野に有為の人材を送り出してきた学校、というニュアンスが込められている。

そこに伝えられてきた「学校文化」には、日本文化全般にもつながる特質があるのではない。こう考えた韓国人の社会学者が、福岡県立修猷館高校などで行ってきたフィールドワークをまとめたのが本書。

著者は、運動会などの行事やOBにまつわる「神話」が生徒たちを変容させ、学校文化が再生産されていく過程を検証する。一方では、例えば「質朴剛健」の伝統を保つべく「象徴的権力」をふるう同窓会の存在にもスポットを当てる。とかくノスタルジーの対象として語れがちな「エリート高

事務局便り

野上会長、藤吉、長野副会長の下で東京修猷会のお世話をする事になって2年目、本会報も第11号を数える事となりました。

昨年4月の二木会を修猷館を卒業して東京へ来られた新人歓迎会を兼ねたものとしたことから、又総会に現役の学生に声をかけた事もあって、幸い会員にも、古い、伝統ある本会に少し関心を持ってもらえる様になったと思います。引き続き就職シーズンでの手助けが役に立てばと考えます。

一方、会の運営は皆様会員の年3,000円の会費が唯一の財源で、皆様には引き続き会費納入を切にお願いする次第です。

その中で昨年4月より会の運営業務の一部を「丸紅パーソネルサポート」に委託し、名簿の管理、各種印刷、発送、連絡業務をお願いしております。この委託業務は単純な遂行業務です。から、会のあるべき姿、運営についての苦言、アドバイス、提案等は二木会、総会時に直接幹事長以下の執行部へお願いします。

今年の総会時期より東京修猷会のホームページを開設する事で担当学年の皆さんと協議中で、又新しいページが開かれると思います。ご期待頂くと共に、改めて年会費3,000円のお支払いをお願いします。

(幹事長・田代 信吾・昭35年卒)

「新入生歓迎会」のお知らせ

来る4月8日(木)午後7時より第466回二木会を「新入生歓迎会」として行います。会費は一般3,000円、新入生無料です。(場所:学士会館)お誘い合わせの上、おでかけ下さい。

